

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1239 号	氏名	松田 光太郎
審査担当者	主査	矢野 博久	(印)
	副主査	田中 洋子	(印)
	副主査	長藤 宏司	(印)
主論文題目: Clinicopathological and prognostic value of transforming acidic coiled-coil containing protein 3 (TACC3) expression in soft tissue sarcomas (軟部肉腫における TACC3 発現の臨床病理学および予後因子としての意義)			

審査結果の要旨 (意見)

Transforming acidic coiled-coil-containing protein 3 (TACC3)は微小管制御蛋白で、種々の悪性腫瘍で異常発現が報告されているが、悪性軟部腫瘍での検討は無い。今回、TACC3 蛋白の発現を 14 種類、136 例の悪性軟部腫瘍において免疫組織学的に検討し、TACC3 の発現が、腫瘍の異型度、分化度、核分裂像、病期、p53 や Ki67 蛋白の発現など、腫瘍の生物学的悪性度と有意に関連することを初めて明らかにした。更に、TACC3 が悪性軟部腫瘍において無病生存期間や全生存期間と有意に関連しており、独立した予後因子である事も明らかにした。悪性軟部腫瘍における TACC3 の発現の意義を明確にし、今後の治療の標的分子となる可能性も示した重要な研究であり、学位論文として極めて価値の高いものであると判断する。

論文要旨

Transforming acidic coiled-coil-containing protein 3(TACC3)は、微小管制御蛋白であり、様々な癌種と関係している。しかし、軟部肉腫と TACC3 の関わりは明らかになっていない。

我々は、136 例の軟部肉腫の切除検体を用いて免疫組織化学染色を施行し、TACC3 発現と臨床病理学的特徴の関係を統計学的に検討した。さらに、癌抑制遺伝子の p53 と細胞増殖マーカーの Ki-67 の発現も併せて評価した。

TACC3 の高発現は 94/136 例の軟部肉腫に認められ、FNCLCC grade の高さ、腫瘍の分化度の低さ、核分裂数の多さ、AJCC stage の進行度、p53 の高発現、Ki-67 の高発現、術後補助療法の有無と有意に関係していた。そして、TACC3 高発現群では、無病生存期間と全生存期間の有意な短縮を認めた。さらに、多変量解析では TACC3 の高発現は無病生存期間と全生存期間のいずれにおいても独立予後不良因子であった。

我々の研究結果は、TACC3 は軟部肉腫における独立予後不良因子であるだけでなく、新たな治療標的になりうる可能性を示唆している。